

「つくば科学フェスティバル2004」報告

10月10日、日曜日。この日、「つくば科学フェスティバル2004」がつくばカピオで開催されました。本年度は、開催初日が台風22号の関東地方通過とぴったり重なってしまい、暴風雨警戒のため10月9日（土）（1日目）は中止となってしまいました。かわりに、まずまずの天候に恵まれた翌日は、会場の通路を埋め尽くす人、人、人…。まるで、前日の来場者もあわせて来たように…。

今回も昨年同様、つくば市内にある研究機関や高校、小中学校等51団体が出展。その中で当研究所は、家畜育種繁殖部みつばち研究室が「探してみよう！ミツバチの不思議な世界」というタイトルで、普段間近で見ることのできないミツバチについて、少しでも多くの子供たちに理解してもらおうと様々な企画を催しました。

ミツバチといえば、はちみつ、ローヤルゼリー、花粉、プロポリス、ハチの子、蜂針治療、ミツロウ、花粉媒介と8つの贈りものを私たち人間に与

えてくれる一方で、「刺されると痛い」と近寄りがたいイメージもあります。

そんな中でもかなり人気があったのが、巣箱の中にいるハチの様子を観察コーナー、ハチミツ搾りの実演でした。また、食生活でもよく親しまれているハチミツについて、そば・ひまわり・ミカン・レンゲ・とち・ソヨゴ・アカシアの7種類の試食を行い、初めて口にする珍しいハチミツが子供たちに大好評でした。これらの企画により、「ミツバチ」も少しは身近に感じる事ができたのでは、と思っています。

いまや国民の食生活には欠かせない存在となっている畜産物生産に関する研究を行っている畜産草地研究所。当研究所の成果を今後とも是非、不思議さを肌で感じとり、それを興味へと導くこの科学フェスティバルでアピールしていこうと考えています。

（企画調整部 情報資料第1課 岡田明子）



ハチの巣箱を観察する来場者



ハチミツ搾りの実演コーナー